

未来を共創する公立高等学校

兵庫県立川西明峰高等学校 松井 健太郎

生徒数	約900名	教員数	約60名
兵庫県南東部川西市のほぼ中心に位置する創立 46 年の全日制普通科の公立高校。1 学年約 280 名が在籍し、その約半数が大学・短大に進学する。従来から散発的におこなわれてきた ESD を 2017 年度から体系・総合的で持続可能な教育活動として学校体制に落とし込む試みがなされてきている。学校の特色として設置されているグローバルキャリア類型(以下 GC 類型記)を封切りに、ESD による教育活動の再方向付けをおこなってきた。ASPnet 加盟申請においてはチャレンジ期間を満点で通過し、2021 年 5 月に「ユネスコスクール・キャンディデート」として認定され、本申請の承認待ちである。			



評価手法を適用した実践紹介

P4 - P6 参照

本年度の評価事業はアクションリサーチの手法をとりいれて、(調査・評価)→(実践)→(改善)の3つの段階に分けて、長期的に探索的に評価の改善を行った。

第1段階(調査・評価)	2019年4月～2022年2月	Final Report
第2段階(実践)	2021年9月～2022年1月	ESD活動自己評価表(兵庫県立川西明峰高校版)
第3段階(改善)	2021年9月～12月	リフレクションムービー

第1段階(調査・評価): Final Report

【全体説明】



【生徒記入事例】

P5 P6 参照



高校2年生(56名)の1年間の学びを対象に実施。3月(高校2年生ガイダンス時)から翌年2月の1年間にわたる調査期間で、探究活動以外の授業の内容や課外活動も対象とした自己評価。

調査時期は毎年年度終わりの1月から2月。本活動は4年連続で実施されており、昨年度「学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業(第2期)」(文部科学省令和3年度SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業)にて、評価要素・評価対象・評価手法開発までのプロセスについて、さらに整理・深化をおこなった。

その様子の詳細は文部科学省「2020年度ユネスコ活動費補助金」で作成された「変容を捉え、変容につながる評価のカタチ-SDGs時代を生きる学校教員の知恵-」にて報告されている。(P.23,24に該当)

活動前や活動中に対する自己評価を本人が記憶していない場合は、記述されない事例が3年間続いていた。一方で、Final Reportは授業担当者だけでなく、当該生徒の担任や学年団をはじめとした本校教員や、保護者にとっても生徒の成長が見られる貴重な成果物であることは変わらない。

第2段階（実践）：ESD活動自己評価表（兵庫県立川西明峰高校版）

高校2年生（56名）のグループでの探究活動を対象に実施。調査時期は、探究開始の9月（2学期最初の授業）と1月（3学期最初の授業）の2回。その間、50分間の2コマ連続の授業を13週にわたり授業を実施し、授業内での発表に加えて全校生徒への発表や校外の探究活動発表会に2度の出場を経験する単位として計画実施され、5か月間にわたる調査期間となった。

実施方法は、Google Classroom 経由で、ESD活動自己評価表（福山市立福山中・高等学校版を引用）のExcelデータを配布・回収した。

4年間継続して行っているFinal Reportに加えて、中期的な単位としての探究活動の活動前・活動後・未来に関する自己評価をリフレクションする機会を提供できた。しかしながら、9月の時点で、ある程度の記述が見受けられながらも、リフレクションに慣れていない生徒や、言語を書いてアウトプットすることが苦手な生徒にとっては、活動前の状況を把握しにくい現状が浮き彫りとなった。（数時間だけの授業ではなく、中長期的な単位に基づく授業であったことから、1月の2回目の記述では十分な学びを読み取ることができた。）

第3段階（改善）：リフレクションムービー

高校1年生（1名）の短期オンライン留学プログラムの学びを対象に実施。調査期間は、9月から12月の3か月間で調査時期は12月。活動後に10分間にわたるリテイクなしで、支援を行った教員4名が参加した生徒1名に対して、様々な角度から問をなげかけて答えるインタビュー&対談型のリフレクション動画を撮影した。

調査対象を高校2年生から1年生としたことで、書くことよりもハードルを下げた対談型のアウトプットを行った。体験を伴う学びであったため、文章表記よりも動画でより生徒自身が自らの変容を表現することができた。

生徒の変容

自己評価で自ら学びを振り返り言語化することで、本人たちの予想を超えて多様な学びを深められていることを自覚することができている。授業担当者が記述された内容に対して、確認をしたり、褒めたりすることで、生徒の自己肯定感は高まっている様子である。

調査を行っている時期は高校2年生であるが、高校3年生の卒業手前のアンケート等では、本校で学んできたことに対して肯定的な意見も毎年多く見られている。

実践を通しての考察、発見、感想

ESD活動自己評価表に関しては、学校によって「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」にあてはまる資質能力は異なる。それぞれの学校・学年・学級の実態に応じて、授業担当者をはじめとした教職員間で資質・能力の言葉の定義を共有し、生徒と対話を行うことで、生徒は持続可能な開発に対する理解が深まると実感した。

例年、「Final Report」で年度末にリフレクションを行ってきたが、今年度は年度の間地点で「ESD活動自己評価表」を行うことで、意識したい資質・能力について、生徒と授業担当者がより共有することができた。また、「Final Report」や「ESD活動自己評価表」では、生徒が日本語を書く言語活動の場面でどれだけ表現できるかにゆだねられている側面を考慮して、今年度初の試みとしてインタビュー&対談型を用いて書くだけでなく話すことで、生徒のリフレクションを促した。

今後の展望として、書く活動であれば時間をかけてリフレクションをすることができるが、話す活動であれば即興性が求められることを踏まえて、アウトプットとして書くことと話すこと両方のリフレクションを行うことで、より生徒の変容を読み取ることができると考えられる。目的を生徒のリフレクションそのものに置き、時間が許すのであれば、記述型の「Final Report」・「ESD活動自己評価表」と、インタビュー&対談型の「リフレクションムービー」の双方を実施する方が、確実に生徒の変容をよみとることができると実感した。また、活動中のリフレクションは行えていないため、記述回答ではない多肢選択式回答の簡易的なリフレクションを導入することも考えられる。

評価手法開発にあたり参考にした文献・書籍・教材

- ・ 石森広美(2013) .「グローバル教育の授業設計とアセスメント」学事出版 .
- ・ 三宅なほみ(監訳)ほか(2016) .「21世紀型スキル 学びと評価の新たなカタチ」北大路書房 .
- ・ 一般社団法人学び続ける教育者のための協会(REFLECT) (2019) .「リフレクション入門」学文社 .
- ・ 中島英博(2018) .「学習評価 シリーズ 大学の教授法4」玉川大学出版部 .
- ・ 松井健太郎(2020) .「公立高等学校普通科における教育実践 -グローバルキャリア類型のESDによる再方向づけ-」教職教育研究-教職教育研究センター紀要第25号 .

問い合わせ先

学校名

氏名

電話番号

住所

メールアドレス

兵庫県立川西明峰高等学校

松井 健太郎

072-757-8826

兵庫県川西市萩原台西2丁目324番地

ESD活動自己評価表（兵庫県立川西明峰高等学校）

2021年 月 日 曜日

年 組 番 名前

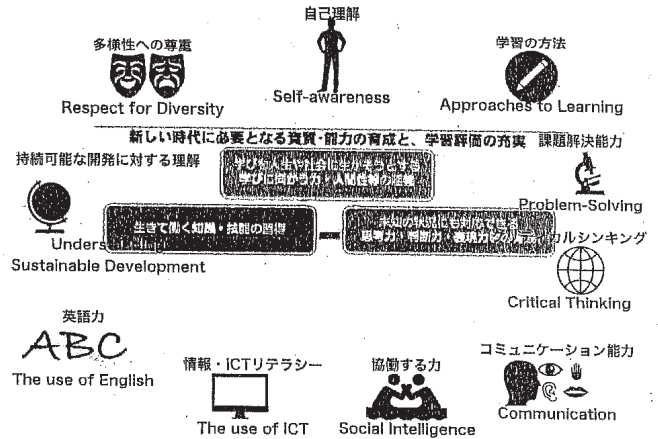
我が校で育みたい 資質・能力		3つの柱	ESDに関する実践活動で 意識するコンピテンシー (ESDの評価要素)	自己評価表(コンピテンシーを意識しながら記載してみよう。)	
				[活動前]今の自分を振り返り、 どんな力が伸びているかを書こう。	[活動後]活動を通じて、 自分はどんな力が伸びたかを書こう。
①持続可能な開発に 対する理解	知識 技能	■	持続可能性／SDGsに関する 知識・理解・スキル習得	☐	☐
②言語能力			言語化力	☐	
③情報・ICTリテラシー				☐	
	思考力 判断力 表現力	■	言語化力	☐	☐
			応用力	☐	
⑦課題発見・解決能力			問題解決能力	☐	
			意思決定力	☐	
			論理的思考力	☐	
			創造力	☐	
			システム思考力	☐	
⑥クリティカルシンキング			批判的思考力	☐	
			(情報収集・選択)・活用力	☐	
⑤コミュニケーション能力			発信力	☐	
	学びに 向かう力 人間性	■	持続可能な地域・国際社会へ の取組への行動力	☐	☐
⑧自己理解			メタ認知能力	☐	
			自己肯定感	☐	
			課題の自分事化	☐	
⑩多様性への尊重			多様性と共生の尊重	☐	
⑨学習の方法			学び続ける力	☐	
			傾聴力	☐	
			リーダーシップ	☐	
			責任感	☐	
			公平性	☐	
	柔軟性	☐			
	困難を乗り越える意思	☐			
④協働する力	合意形成と協力	☐			

GC I (グローバルキャリア類型 高 2 生必修科目)

Final Report

GC I で様々な単位をとおして学んだことをまとめなさい。

2020 年 2 月 5 日(水)配布 2 月 19 日(水)回収



1. GC スプリングセッションからはじまり、3 学期間の GC I で学んだことを「グローバルキャリア類型で育む 10 の力」ごとに日本語でまとめなさい。

変化や成長がみられた具体的な場面をふまえて回答すること。

年度当初配布のシラバス、1 学期と 2 学期での定期考査、

夏課題のポートフォリオを参考にしてもよい。

観点	グローバルキャリアで育む 10 の力	回答欄
学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力・人間性等	自己理解	このレポートの人生計画を書きかけに今まで自分の中で将来についてあやふやだったことに気付きました。人生計画を描いている時に自分は将来どのようなように進学し、どのような職業に就職したいかを改めて理解することができました。
	学習の方法	今までは教科書を読むだけの学習方法だったのがこの GC I を通して GPM の方々や中国の方々と交流し、新しい学習方法を身につけました。また海外の動画をみて勉強するなど、今までやっていなかった学習方法を知り、今後はもっとタブレットと話し、洋画を沢山観るなど学習の方法に変化がありました。
	多様性への尊重	GPM の学校交流で GPM の生徒はすごく積極性があり、コミュニケーション能力もありました。他国に行って多様性について強く感じることもできました。GPM の方の人柄や人間性にすごく好感を感じたので、海外の方がうらやましいと思われないように、もっと積極的にコミュニケーションをとって行きたいです。
生きて働く知識・技能	持続可能な開発に対する理解	世界一大きな授業で持続可能な開発について知ることができました。SDGs について学んで今までは自分には関係のないことだと思っていましたがこの授業を書きかけに、貧困や戦争などについて知ることができました。少しもかにはなるが私はタブレットを買おうか悩んでいるようになりました。
	英語力	海外の映像のセリフを暗記し、タブレットに発表を 1 学期の授業で行いました。私は「ダンス」の映像を暗記しました。初め頃は全く覚えられず、周りに置いていかれるんじゃないかと不安でしたが、毎日通学の時と寝る前に練習していたおかげで暗記できて、本番では 100 点をもらうことができました。それから自信が湧き、その自信が英語力につながりました。
	情報・ICT リテラシー	GC I の授業を通してコミュニケーションの使い方を学ぶ情報について月々機会が増え、メールやワードの使い方も学びました。将来は旅行会社に就職したいと考えており、そこで学んだ ICT リテラシーを就職先でも使いたいと思います。もっと勉強します。
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等	協働する力	課題研究で一緒に取り組んだグループは正直あまり話したことがなかった方だったので、課題研究を通して発表や話し合いを重ねるごとに仲が深まり、結果を残したいというグループの強い意志が賞をとるまで大きくなったことが協働する力に繋がって、身につきました。
	コミュニケーション能力	課題研究の発表を通してコミュニケーション能力が身につきました。特に甲南大学での発表の時に沢山の人が見に来て下さり、その時から発表に対し、恥ずかしいという感情や緊張を感じなくなりました。更に成長のため「国際問題を考える日」では質問したり、話を振ったり、自ら発表ができるようになって成長を感じました。
	クリティカルシンキング	甲南大学での発表や国際問題を考える日で特に沢山の意見を頂いた中、とても参考になる意見もあり、そうではない意見もあり、とまどったことも沢山ありましたが、この件を書きかけに周りの反応が全てではないということに気付く、物事の本質をしっかりと見極めることができるようになりました。
	課題解決能力	課題研究の発表で毎回アドバイスをもらうごとに新たな課題や見つけた時、初めはどう解決すれば良いのかわからず、とまどってばかりでしたが発表の回数を重ねるごとに新しい課題への対応がとんとんできるようになりました。授業に解決策を自ら提案できた時は成長を感じ嬉しかったです。

2. GC Iでの探究活動として各班で取り組んできた「課題研究」を踏まえて、以下の問いに日本語で答えなさい。

(1) 今後、個人で探究する場合の「課題」およびその「背景」を述べなさい。

「課題」 自分に見合ったお金の稼ごうが 「背景」 将来お金持ちになりたいので「お金の稼ごうが」自分にとって
いるのかとても気になったから。

(2) (1)に基づいて設定した、あなたの今後の「問い」を述べなさい。

お金に困っている人と困っていない人の違いとはなんだろうか

(3) (1)と(2)に基づいて設定した、あなたの「仮説」を述べなさい。

自分に合った稼ごうをすればお金持ちになれるのではないかと。

(4) あなたの「仮説」を検証するために行うべき、「研究の手法」を述べなさい。

仕事は楽しいか、自分がその仕事が適正しているか、不自由なく生活できているか、今後お金持ちになれる見込みがあるか、
アンケートを取り、そこから仕事を楽しいと感じ適正していると回答している人とお金持ちである又はその見込みがある人の割合を検証する。

3. GC Iでの校外学習(甲南大学訪問、リサーチフェスタ、高校生国際問題を考える日)で学んだことをそれぞれ日本語で述べなさい。

甲南大学訪問

大学を訪問して学部について知ることができたことと感想を書いた。大学について様々な学部があると知り、将来行きたい学部について学びたいことが
あった。

リサーチフェスタ

初めて沢山の人の前で発表しとても緊張したが、賞を頂くことができ、おもしろいと言ってもらえて今でも発表が苦手だったが、発表の楽しさを学びました。

高校生国際問題を考える日

この日は沢山の前に見えて、沢山の意見も聞きた。厳しい意見もありましたが、嬉しい言葉も沢山頂けて改めて人と関わることの喜びを学びました。

4. 高校卒業後の進路実現に向けて、今後のあなたの計画を述べなさい。

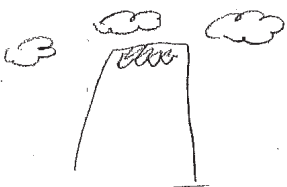
私の将来の夢は旅行会社に就職することです。

そのために...

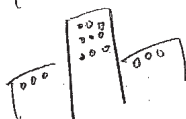


現在～高校卒業までに英語力を身につける

大学入学～大学卒業までに沢山の所に訪れる



NEW YORK



卒業後は...

旅行会社に移って夢を叶える!!!!!! (U)

英検準2級の
二次試験に合格する!

授業はみんな
丁寧だと沢山の話。

英検2級を
取得する!!!

資格を取得できる
大学に入学!!!

「国内旅行業務取扱管理者」
「総合旅行業務取扱管理者」
の国家資格を取得する!!

4年間をかけた海外、国内合わせて
30カ所以上訪ねる!!!